

東京大学 21 世紀 COE プログラム

先進国における《政策システム》の創出 シンポジウム

主題：政党の政策位置に関する考察 - 専門家調査の比較からの接近

報告者：マイケル・レイヴァー教授（ダブリン・トリニティ・カレッジ）

日時：2004 年 11 月 12 日（金）14 時～17 時

第 1 報告 "Estimating party policy positions: Japan in comparative context."

アクターの政策空間認識の調査を通じてどの政策次元が重要であるのかを帰納的に明らかにするために、報告者は 47 ヶ国の政治学者を対象にして政党の政策位置に関する調査を実施した。この結果、日本では社会政策（中絶・同性愛など）・環境・移民・分権・規制緩和が重要度の高い政策次元である一方、左右の位置づけは環境・分権・対米関係・防衛・社会政策などとの相関が高いことが判明した。また、国際比較における日本の特色としては、全政策次元の重要度がおしなべて低いこと、経済政策ではなく社会政策が最重要であることが挙げられる。続いて、社会政策と規制緩和の 2 次元空間モデルを用いて各国の政党の政策位置を比較の枠組に位置づけ、分類することを試みる。国家間／通時比較には一定の限界があるが、本報告の比較・分類の結果は方法論的難点にも拘らず直感的には納得のいくものである。その意味の考察・検証は今後の課題とせざるをえない。

第 2 報告 "Estimating policy positions using computer wordscoring of political texts."

政策位置の新たな分析方法として報告者が提案するのが、コンピューターによる語彙数評点化である。この方法は既知の「参照テキスト」と新たなテキストにおける同一語彙の使用頻度から両テキストの距離を自動的に測定するものである。2002 年フランス大統領選挙、イタリアにおける大臣と次官の関係の分析に適用した結果、この方法の有効性が証明された。調査計画の作成やテキストの選択など留意すべき点はあるものの、語彙数評点化は、これまで行われなかったタイプの位置測定を可能にする方法として検討に値する。

質疑応答

コメンテーターからは「重要度の低い」政策次元と左右認識との相関について解釈が示されたほか、政党や政策位置の通時的変化、国家間／通時比較と枠組・概念の変化などの論点が提起された。政党内対立の扱い、政党システム破片化の影響、エリート調査などの他のアプローチとの関係、各国研究の意義などについても議論が交わされた。（小山吉亮）